

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00866

研究課題名（和文）多言語社会に対応したやさしい日本語を用いた医療通訳養成教材の研究と開発

研究課題名（英文）Research and development of medical interpretation training materials using "Easy Japanese" for a multilingual society

研究代表者

大野 直子（Ono, Naoko）

順天堂大学・国際教養学部・准教授

研究者番号：90730367

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：日本に在留する外国人の多くは、日常生活の中で言語的な困難を経験するが、英語以外の言語面での支援は十分ではない。「やさしい日本語」が外国人同士のコミュニケーション手段として注目されているが、「やさしい日本語」を用いた医療通訳の学習教材は未だ見当たらない。本研究の目的は、希少言語話者の医療通訳学習者のための「やさしい日本語」を用いたeラーニングプログラムを開発することである。2016年に開発した、医療通訳養成プログラムを基に、eラーニングプログラムを開発した。「やさしい日本語」での試みは本邦初である。本研究により開発されたeラーニングプログラムは、今後の研究の有力なツールとなる可能性がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により開発された「やさしい日本語」を用いた医療通訳者のための双方向型のeラーニングプログラムにより、ロールプレイをしながら診療の流れに沿って「やさしい日本語」で医療通訳を学ぶことが可能になった。本プログラムをもとに、より効果的な医療通訳者養成プログラムが継続的に開発されることで、医療従事者と日本語能力の低い患者の診療時のコミュニケーション、ひいては健康格差の改善にも貢献することが望まれる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop an e-learning program for medical translators using "Easy Japanese". Based on a program developed in 2016, an e-learning program for Easy Japanese was developed for medical translators. The curriculum developed in this study could be a powerful tool for future research to develop more effective training programs for medical interpreters that can help overcome language and cultural barriers between medical professionals and patients.

研究分野：通訳教育 医療通訳 教材開発

キーワード：医療通訳 e-learning オンライン教材 教材開発 通訳 やさしい日本語

1. 研究開始当初の背景

本研究が必要な学術的背景として(1)訪日・在日外国人の増加，(2)にわか通訳者による医療への悪影響，(3)一部言語に偏る通訳教育，(4)やさしい日本語とe-ラーニングの活用，の4点が挙げられる(図1)。

(1) 訪日・在日外国人の増加

近年、日本の訪日・在日外国人は増加している。法務省(2019)の発表によると、2018年12月末の在留外国人数は273万1093人で、過去最高を記録した。総務省統計局(2019)の報告によれば、我が国に常住する在留外国人は、平成2年に0.7%、平成7年に0.9%と急増し、平成12年には戦後初めて1%を超えた。2019年4月に施行された改正入管法は、少子化による労働力不足に対応するために、外国人労働者の数を増やして人材不足を解消することを目指した。これまで高度外国人材に限定されていた在留資格は改正され、外国人単純労働者に門戸が開かれた。これにより実質的永住への規制が緩和され、日本で外国人がさらに増加することが予想される。

(2) にわか通訳者による医療への悪影響

医療通訳は、医療の場で外国人の生活を支援する重要な担い手である。医療の質の確保やリスク管理の観点から、ことばに不自由なく診療が受けられる環境を整備すること、医療文化の違いを学習する機会を増やすこと、医療通訳者に対する教育を支援していくことが重要であると考えられる。しかし、**現状は訓練を受けていないにわか通訳者が通訳にあたることが多く、その臨床結果への悪影響が指摘されている。**永田ら(2010)は、にわか通訳者は誤訳を引きおこす危険性があることに加えて、患者に近い立場の人である場合は患者のプライバシーを共有することについて問題があることも指摘した。日本で今後医療のグローバル化がますます進むことが予想され、「外国人が安心して医療を受けられる環境」の実現のために、必要な研修を受けた医療通訳者の普及拡大が望まれる。

(3) 一部言語に偏る通訳教育

言葉の橋渡しのみならず文化や社会的関係の仲介者となることのできる通訳者になるためには、相応の訓練と経験が必要であり、現在日本では主に通訳学校による訓練が行われている。しかしながら、日本の通訳学校において、主に通訳訓練コースを設置している言語は主に英語であり、英語以外の言語に関しては、学習環境が整備されているとはいえない。

法務省が発表した2017年末の国籍別外国人登録数の構成比では、1位の中国の他にも、在留外国人のなかでベトナム、ネパール、タイ、インドネシア出身者が10位以内に入っており、なかでもベトナム人は増加が顕著で、対前年末比6万8430人増となっている。このように、現在受け入れている外国籍・地域は多様化しており、それに伴い対応が必要な言語の種類も多様化している。そのため、日本で多様な国籍の外国人が生活していくなかで、多くの言語に対応できる支援体制が必要である。**コミュニケーションの仲介者としての通訳を養成するために、多言語対応につながる学習環境を整備することが必要である。**

(4) やさしい日本語とe-ラーニングの活用

全国各地で言葉を用いたコミュニケーションの必要性が生じる可能性があるが、希少言語の通訳が可能な人材は少なく、通訳者自身が現場に赴くことが出来ない場合がある。そのような場合の問題解決策の一つとして、多言語の学習者が使用できる「やさしい日本語」を活用すれば、**言葉の障壁に対する対策になりうる。**「やさしい日本語」とは、阪神淡路大震災がきっかけで生まれた、外国人の日本語理解に配慮した日本語である。在留外国人は、日常生活の中である程度の日本語を習得している可能

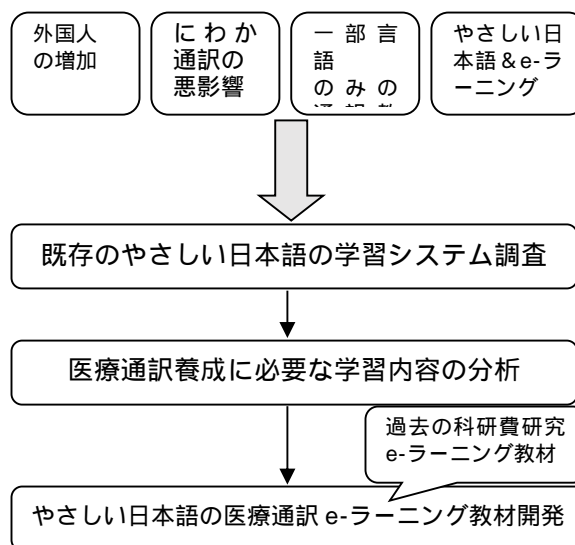


図1：本申請書の研究計画の流れ

性が高い。そのため、やさしい日本語を用いてコミュニケーションを図ることで、希少言語の在留外国人との一定のコミュニケーションは可能になる。

もう一つの解決策として、やさしい日本語を用いた e-ラーニングの活用がある。教育への e-ラーニングの導入により、決まった教室に特定の時間に集合することによってのみ行うことが出来た講義は、遠隔地にいても、深夜であっても受講できるようになった。時間と場所に関係なく学習が可能な環境により得られるメリットは大きく、e-ラーニングを活用した通訳教育は、医療通訳など様々な場面で導入されている。

2. 研究の目的

本研究は、今後日本が多言語・多文化社会になっていく上で必要不可欠な存在となる**医療通訳者養成において肝要となる基本的知識を網羅した e-ラーニング学習教材を、やさしい日本語で開発することを目的とする。**

3. 研究の方法

申請者は、2008 年から英語医療通訳教育システム構築に関する研究を実施してきた。2010 年に名古屋で実施した対面での医療通訳教育研修、また 2019 年に東京で実施した医療通訳ブレンド学習では一定の効果を得たが、対応言語は英語のみであった。今後はこれまでに開発した教材を基盤にして、多言語の通訳教育に対応する教育をやさしい日本語で可能にした。

本研究は 3 段階での実施を想定している。第 1 段階で、多言語社会としての日本における**医療通訳者に求められるニーズを、医療通訳者および NPO などの外部機関へのヒアリング調査により明らかにする。また京都府等より公表済のやさしい日本語を用いた医療用語の現状把握を行った。**

第 2 段階では、第 1 段階で実施したニーズ調査結果と、これまでの研究で明らかにした医療通訳養成に必要な要素を参考にしながら、ARCS モデルを活用したインストラクショナルデザインを行いシラバスを策定し、汎用性が高く多様な言語話者に受け入れられる実用的な教材はどのようなものなのか、在留外国人を対象としたフォーカスグループインタビューにより内容を検討した。

第 3 段階では、開発した教材が多言語の医療通訳志望者に使用可能となるように、Moodle を活用してやさしい日本語を用いた医療通訳教材の内容を検討・作成する。加えて、申請者の以前の科学研究費助成研究で作成した医療用語学習教材のうち、利用可能な部分を抽出しやさしい日本語による教材の作成を行った。既存の自治体や大学・大学院における医療通訳教育において、試作した教材を用いたテスト運用を実施する。テスト運用後のコメントを反映して改善した教材は、通訳者及び通訳志望者が自律的学習に使用出来るようにウェブ上で公開した。

医療通訳の人材を育成するために、本研究により開発されたやさしい日本語を用いた e-ラーニング学習システムが利用可能となることは、医療通訳者の質保証に寄与し社会的にも有意義である。

4. 研究成果

「やさしい日本語」を使用したオンライン医療通訳学習プログラムの概要

大野他(2016)が開発したオンライン医療通訳学習プログラムをベースに「やさしい日本語」e-ラーニングプログラムを設計した。本研究において開発したプログラムにおいても、ブレンド型医療通訳プログラムの構成を引き継ぐこととした。対象受講者は日本語ネイティブの英語通訳学習者から、日本語非ネイティブも含めた多言語の通訳学習者に変更されたため、対象の変更に伴う一般的なニーズの評価として、全国の自治体や国際交流協会の Web サイトを調査し「やさしい日本語」による在住外国人への生活情報、特に医療情報の提供がどの程度実施されているかを調査した。サイトが「やさしい日本語」であるかどうかを区別する基準として、言語設定に「日本語」に加えて「やさしい日本語」が表示されていたり、資料の表紙に「やさしい日本語版」と明示されていることとした。47 都道府県の Web サイトを調査した結果、35 都道府県の Web サイトが何らかの医療情報をやさしい日本語で提供していたが、医療に関する詳細な情報を提供していたのは 6 都道府県のみであった。またキーワード検索では、医療における「やさしい日本語」の情報を提供する団体は公的機関と関連する国際交流協会などの公的機関が最も多かった。これらの検討結果に基づいて、既存のオンライン医療通訳学習プログラムの「やさしい日本語」版を作成した。既存版と「やさしい日本語」版の比較を表 1 に示す。

表 1.既存のオンライン医療通訳学習プログラムと「やさしい日本語」版の比較

既存のオンライン医療通訳学習プログラム	「やさしい日本語」版
1.学習前テスト	削除
2.院内通訳ロールプレイ	1.「やさしい日本語」と英語のロールプレイ
3.医療用語（受付，問診票）	3-1.うけつけ，しんさつ 日本語音声，ローマ字読み仮名，英語を追加
4.医療用語（症状）	5.いりょうようご（しょうじょう） 日本語音声，ローマ字読み仮名，英語を追加
5.医療用語（既往歴）	3-2.きおうれき，かぞくれき 日本語音声，ローマ字読み仮名，英語を追加
6.医療用語（検査）	3-3.けんさ 日本語音声，ローマ字読み仮名，英語を追加
7.医療用語（人体の各部位）	4.いりょうようご（じんたい） 日本語音声，ローマ字読み仮名，英語を追加
8.医療用語（疾患，治療）	削除
9.医療用語（入院，手術，退院）	3-4.5.6.にゅういん，しゅじゅつ，たいいん 日本語音声，ローマ字読み仮名，英語を追加
10.医療用語（会計）	6.いりょうようご（かいけい，くすり） 日本語音声，ローマ字読み仮名，英語を追加
11.医療用語（薬）	6.いりょうようご（かいけい，くすり） 日本語音声，ローマ字読み仮名，英語を追加
12.病院の言葉を説明しよう	7.いりょうようご（病院のことば） 「やさしい日本語」病院のことばリストを追加
13.解剖学入門	削除
14.身体の部位（クイズゲーム）	8.からだのなまえ（クイズゲーム）
15.医療通訳者倫理規定	2.いりょうつうやくかんれんどうが
16.異文化コミュニケーション	削除
17.非言語コミュニケーション	削除
18.参考リンク集	9.リンクしゅう
19.提出課題	削除
20.学習後テスト	削除
なし	2.いりょうつうやくかんれんどうが （受付，会計，オノマトペ，倫理，通訳訓練法）
学習後アンケート	削除
受講者用交流掲示板	削除

既存のオンライン医療通訳学習プログラムは，日本人英語学習者を主な対象者としていたが，「やさしい日本語」版では非日本語母語話者で多言語の学習者を対象者としたため，インターフェイスを見やすくするために，項目数を 20 項目から 9 項目に減らし，収録した単語数も減らした。医療通訳のロールプレイに関しては，通常の日本語を「やさしい日本語」に変更し，「やさしい日本語」と英語間の通訳練習とした。また，最初にロールプレイを置き，ロールプレイを体験した後に，ロールプレイの場面のなかに出てきた日本の医療制度について動画で学習し，その後でわからなかった医療用語や医療の表現を，単語や表現単位で学べるような構成とした。そのようにすることで，ロールプレイを体験した後で自分の出来なかった箇所について意識した上で，単調で続けづらいと思われる一方向の動画講義をモチベーションを持って受講できるように工夫した。また，単語や表現の学習医療関連の日本語は読み方が日常的ではないため，医療用語の日本語音声とローマ字，英語（音声）を併記した。単語や表現の練習は単調になりがちであるため，選択式のゲームや音声を加えて続けやすいような工夫を加えた。さらに，日本独自の医療制度やオノマトペ，医療通訳倫理，通訳訓練法など「やさしい日本語」の文章のみでは説明が難しいものに関しては，文章ではなく動画を作成した。さらに，病院で使用する

「やさしい日本語」病院のことばリストを新たに作成し追加した。

学習前後テスト、交流掲示板、解剖学入門、非言語コミュニケーション、異文化コミュニケーションに関しては、日本語母語話者を想定して作成していたものであったため、削除した。

英日医療通訳者を想定して作成されたオンライン医療通訳学習プログラムは、多言語の学習者、また非日本語話者に向けて改変され、新しい「やさしい日本語」を使用したオンライン医療通訳学習プログラムが開発された。主な改変内容は、「やさしい日本語」と英語のロールプレイ、医療通訳関連動画、医療用語や医療の日本語表現、外部資料の活用であった。

考察・評価

本研究の目的である「やさしい日本語」を用いた医療通訳者のための e ラーニングプログラム開発において、複数のコンテンツを改変した。多言語学習者に学習してもらえるように、以下の点を改変しながらプログラムを開発した。まず、通訳訓練法や倫理規定に関しては、希少言語の通訳者には浸透していないことから、「やさしい日本語」で動画を作成して、実例を提示しながら訓練法について学べるようにした。次に、日本語でも読み方が困難な医療単語に関しては、「やさしい日本語」と英語を併記したうえで、日本語の音声も追加することで、文章で読むとわからない読み方も学習できるようにした。さらに、概念が分かりにくい医療単語については説明も追加した。日本の医療制度について、受付と会計の迷いやすい手続きを、動画でわかりやすく示した。本プログラムのさらなる活用法として、講義を提供したうえで、リアルタイムでのトレーニングを実施することも考えられる。

本研究の限界はいくつかある。まず、プログラム利用に対する効果の評価を今後実施する必要がある。次に、学習管理システム(Moodle)の登録ユーザーしかログインできないオンラインコースであることから、ログインしなくても、Web 上でアクセスすれば、誰でも学習可能なサイトによるプログラムの開発が今後の課題である。

Web ベースでの医療通訳養成プログラムは、コロナ禍で提供が進んだが、まだ講義動画を配信するなど一方的な学習のものが多く、双方向的な学習システムの前例は少ない。特にロールプレイをしながら診療の流れに沿って通訳を学ぶことができるシステムはほとんどなく、「やさしい日本語」での試みは本邦初であるといえる。そのため、本研究において開発したプログラムは今後のプログラム発展の一助となると思われる。

【参考文献】

法務省(2019).平成30年末現在における在留外国人数について

http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00081.html

総務省統計局(2019).在留外国人数.2019.

<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2000/gaikoku/00/01.html>

永田 文子, 濱井 妙子, 菅田 勝也(2010). 在日ブラジル人が医療サービスを利用する時のにわか通訳者に関する課題, 国際保健医療, 25, 3, 161-169.

大野 直子, 加藤純子, 栗原朋之. マルチメディアを使用した医療通訳養成システムの構築. 教育研究(58) 67-76, 2016.

Ohno Naoko, Hamai Taeko, Okabe Junko. Development of a Blended Learning Program for Training Medical Interpreters. Educational Studies, 60 19-26, 2018.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 大野直子, 濱井妙子, 岡部純子	4. 巻 65
2. 論文標題 医療通訳学習環境に関する一考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育研究	6. 最初と最後の頁 79-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34577/00005211	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Naoko Ono, Taeko Hamai, Junko Okabe	4. 巻 64
2. 論文標題 Exploratory Study on the Current Situation About Providing Medical Information in “ Easy Japanese ”	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Educational Studies	6. 最初と最後の頁 63-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大野直子, 野田愛, ニヨンサバ・フランソワ	4. 巻 21
2. 論文標題 順天堂大学院医学研究科ヘルスコミュニケーションコースにおける医療通訳概論の授業報告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Medical English Education	6. 最初と最後の頁 65-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大野直子, 岡部純子, 濱井 妙子	4. 巻 66
2. 論文標題 「やさしい日本語」を用いた医療通訳研修eラーニングプログラムの開発	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 教育研究	6. 最初と最後の頁 83-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大野直子, 濱井妙子, 岡部純子
2. 発表標題 希少言語話者が医療通訳を学ぶ時の課題に関するインタビュー調査
3. 学会等名 第37回日本国際保健医療学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大野直子, 野田愛, フランソワ・ニヨンサバ
2. 発表標題 順天堂大学大学院における医療通訳養成コースの現状
3. 学会等名 第6回国際臨床医学会学術集会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	濱井 妙子	静岡県立大学・看護学部・講師	
	(Hamai Taeko)		
	(50295565)	(23803)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------